

# 一般社団法人室内環境学会 2023 年度 第 2 回通常理事会議事録

日 時：2023 年 9 月 26 日（火）13:00～16:00

場 所：事務局会議室／オンライン会議室

出席者

理事：東賢一（理事長）、中島大介、鍵直樹、橋本一浩（事務局長）、小栗朋子（会計）、三宅祐一、森田洋、篠原直秀、萬羽郁子

事務局：野村佳緒里、色摩操

監事：湯懷鵬、齊藤智

オブザーバー：佐藤博

欠席：嶋崎典子、高木麻衣、徳村雅弘、柳宇

本理事会は総理事数 13 名のうち過半数である 9 名が出席していることから、定款第 34 条により成立した。また同第 33 条により、本理事会の議長は東理事長が務めた。

議事次第：

1. 2023 年度第 3 回臨時理事会議事録 → 承認された。

2. 2023 年度委員会活動報告

総務委員会：従来の事務局の業務を引き継ぎ、学会の事務処理全般を行った（橋本委員長）

財務委員会：従来の事務局が担当していた会計業務を引き継ぎ、学会の財務および会計に関する管理を行った（小栗委員長）

学術委員会：例年通り、各分科会活動の支援、学生懇談会開催の支援、2023 年度研究助成金の交付（今年度は 1 件）および 2022 年度研究助成収支報告書の審査を行った（中島理事）

出版委員会：例年通り学会誌を 3 号発刊し、J-stage 及び学会 HP へ学会誌掲載論文のアップロードを行った。投稿規定および転載利用許諾の改正を行った。また、広報委員会と連携し、従来の投稿票を廃し、投稿フォームによる提出様式に変更した（森田委員長）

事業委員会：例年通り、永年賞の審査、他団体から後援・協賛依頼の審査を実施した。また、2023 年 3 月に講演会（「にょい」と「かおり」の最前線）を実施し、約 6 万円の収支黒字であった（三宅委員長）

社会連携委員会：2022 年学術大会にて国際シンポジウムを開催した。また、韓国室内環境学会のシンポジウムに講師を派遣した（橋本理事）

広報委員会：例年通り、学会 HP、大会 HP、Facebook などの運営を行い、ニューズレターの配信を実施した。学会 HP は今年から HTTPS 化した。また、九州支部 HP 立ち上げのサポートを行った。（萬羽委員長）

若手活性化委員会：学生会員を委員に加えた新規委員会としてスタートした。キックオフミーティングを実施し、今後の委員会の活動方針について意見交換を行った（橋本理事）

表彰委員会：これまで学術委員会にて検討を重ねていた表彰制度の新設について、新たに立ち上げた表彰委員会で引継ぎ、規程案の作成を行った（篠原委員長）

九州支部：恒例の支部主催研究発表会（第 16 回）を九州大学にて、支部主催の特別講演会を長崎国際大学にて開催した。また例年実施している学校での実測調査も行った（佐藤支部長）

新型コロナウイルス WG：歯科医院での換気・飛沫核飛散調査を実施した。また、WG 主催のシンポジウ

ムを江東区文化センターにて実施した（篠原理事）

室内環境辞典編集 WG：書籍の名称が「室内環境の事典：快適で健康な暮らしを支える科学」に決定し、ゲラの校正、付録・口絵の追加、全体的なフォーマットの調整などを行い、最終原稿を完成させた。本書は9月1日に刊行され、WGの活動は終了した（橋本理事）

将来構想 WG：他学会における個人会員、法人会員の比較、本学会の会員の推移について整理し、学会収支について検討を行った（鍵理事）

### 3. 2023 年度決算報告（暫定）

小栗財務委員長（会計）より 2023 年度第 11 期会計決算（9 月 30 日時点での暫定）が報告された。繰越金は前年度に比較し、50 万円程度増加する見込みとのこと。

### 4. 2024 年度予算案

東理事長より 2024 年度事業予算案が提案された。概ね例年を踏襲しているが、新設の 4 委員会に新たに活動費を割り振った。また、事務業務委託経費に含めていた事務局員の交通費を、理事会の交通費に移し統合した。近年、学会誌が 3 号になって以降、赤字予算が継続しているが、これを解消するために学会誌の見直しを中心に改善に取り組んでいくとのこと。

### 5. 2024 年度事業計画案

東理事長より 2024 年度事業計画案が提案された。今年度方針を概ね継続する内容であるが、特に事業収支の改善に取り組み、学会の健全運営を推進していく旨が説明され、了承された。

### 6. 分科会設立申請

燃焼器具分科会の設立が申請され、承認された。本分科会の活動期間は、他分科会に合わせて 2024 年度末までとする。

### 7. 2024 年度委員会活動計画

総務委員会：理事会・評議員会・各委員会等の活動補助、外部団体との連絡窓口、外部問合せへの対応、学術大会・講演会の開催補助などを行っていく（橋本委員長）

財務委員会：学会財産の管理、各委員会等への活動費振込、会費請求書の送付、決算書作成などを行う。また、将来財務の見直しについて提言を行っていく（小栗委員長）

学術委員会：各分科会の支援、研究助成金の交付を例年通り行う。また、各分科会も例年通り、セミナー、勉強会、共同研究の実施を予定している。なお、学生懇談会と表彰関連の管轄は他委員会に移行した（中島理事）

出版委員会：来年度も学会誌を 3 号発刊する。J-stage や学会 HP に論文およびその他記事の掲載を行う。学会誌の電子化について、委員会でも議論していきたい（森田委員長）

事業委員会：協賛・後援の審議、永年賞の審査を実施する。学会主催の講演会を大阪で開催することを検討している。また、他学会のイベントにて室内環境学会のセミナーを開催できないか検討したい（三宅委員長）

広報委員会：萬羽委員長より、学会 HP、大会 HP、Facebook の運営やニューズレター配信を例年通りに行う他、創立 30 周年を記念した特集記事を準備しているとの説明があった。出席理事から、30 周年イベントは 2024 年学術大会や学会誌でも企画した方が良いとの意見があり、検討することとなった。

社会連携委員会：学術大会で企業会員との交流会を企画したいと考えている。また、学会 HP の QA の情報が古くなっているため、最新の知見を踏まえた内容に改定していきたい（橋本理事）

若手活性化委員会：来年度から学生懇談会を管轄することになり、学生の委員が準備を進めている。また、若手交流会を開催し、若手会員の発掘と、研究者間の情報交換を行っていく（橋本理事）

表彰委員会：学会に貢献した方や若手の方の表彰制度について議論し決定する。また、学術大会における表彰の審査も担当する（篠原委員長）

九州支部：例年通り、研究発表会を開催する。また学校室内環境の調査も継続する（佐藤支部長）

新型コロナ対策 WG：来年度も継続して活動し、社会に資する調査・研究を実施する。今期は勉強会も実施したい（篠原理事）。

将来構想 WG：学会収支を改善するために、会費収入の検討や学会誌の在り方を検討していきたい。また、学会を安定的に持続させるため、学会事務の DX 化や学術大会の運営方法などを検討していきたい（鍵理事）

## 8. ニュースレター・学会ホームページへの掲載要領

萬羽広報委員長より、学会広報媒体への掲載希望に対応するための要領を新たに作成したと報告があった。①掲載希望の受領から掲載までの流れ、②掲載情報の条件、③依頼者の条件、④掲載場所と方法、がそれぞれ整理され明文化された。

## 9. 2023 年学術大会準備状況

橋本実行委員長より 2023 年学術大会の準備状況が説明された。予算書とともに、演題登録状況や機器展示への申し込み状況が示され、収支は黒字となる見込みとのこと。口頭発表の申込数が 80 演題を超えたため、1 演題あたりの時間を従来の 15 分から 12 分に短縮すると報告された。懇親会は参加者が 100 名を超えることが確実となり、収容可能な懇親会場の検討を行っている最中。また、今大会ではクレジットカード決済を導入した。

## 10. 2024 年学術大会について

東理事長より、2024 年学術大会は北海道を開催地とし、林基哉正会員（北海道大学）に大会長をお引き受け頂いたと報告があった。

### 11. インボイス制度への対応

中島副理事長より、2023 年 10 月から開始されるインボイス制度への対応として、室内環境学会は従来通り免税事業者として活動していく旨が提案され、承認された。

### 12. 新規入会者の承認

事務局より 2023 年 7 月～2023 年 9 月の入会承認者 43 名（正会員 15 名、学生会員 28 名）のリストが報告された。また、最近の入会希望者 4 名（正会員 3 名、法人会員 1 社）のリストが示された。

### 13. その他

- ・会員動向として、2023 年 9 月 25 日時点で正会員 371 名、法人会員 57 社（団体）、学生会員 79 名、シニア会員 12 名であると報告された。
  - ・2023-2024 年度の論文賞選考委員長として、山口一正会員が推薦された。
  - ・2023 年度永年賞の審査を行い、日本住環境医学研究会への授与を決定したと報告された。
- 以上

署名欄

東 賢一

印

中島大介

印

鍵 直樹

印

橋本一浩

印

小栗朋子

印

高木麻衣

印

三宅祐一

印

森田 洋

印

柳 宇

印

篠原直秀

印

萬羽郁子

印

徳村雅弘

印

嶋崎典子

印